

U.S. Indicators

発表日: 2024年12月24日(火)

急低下し米個人消費の減速示唆(12月CB消費者信頼)

～利下げ期待の後退、トランプ・インフレへの懸念等を受け期待指数が大幅低下～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治 (Tel: 050-5474-7493)

24年12月のCB消費者信頼感指数は、104.7(前月112.8:改定前111.7)と市場予想中央値の113.2への上昇に反して、前月比▲8.1ポイント低下した。現状指数が140.2(前月141.4:改定前140.9)と前月比▲1.2ポイント低下したほか、期待指数が81.1(前月93.7:改定前92.3)と同▲12.6ポイント低下した。

12月のCB消費者信頼感指数では、現状について労働市場の改善を示したが、景気の弱まりを示している。さらに、将来に関して、利下げ期待の後退、関税賦課によるインフレ、景気への懸念等を背景に、消費者が雇用に悲観的になった他、景気、収入増への楽観的な見方を弱めており、全体として個人消費の減速を示唆している。

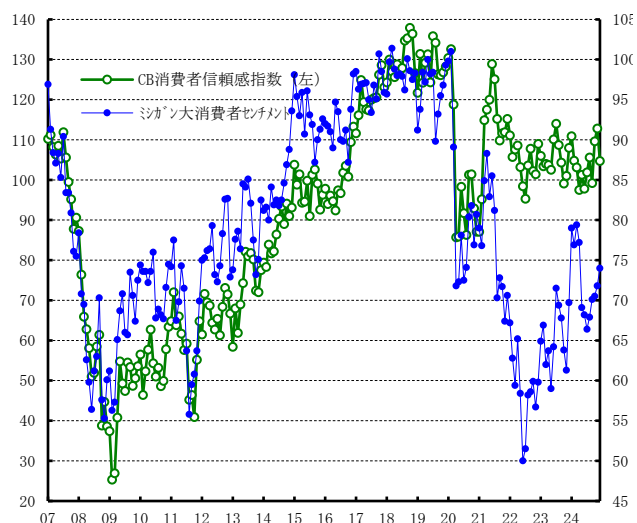
現状指数の構成項目では、「雇用」がプラス幅を拡大した一方、「景気」がプラス幅を縮小した。現在の雇用機会に対する判断(「充分」-「困難」)は+22.2(前月+18.4:改定前+18.2)とプラス幅を拡大しており、現在の労働市場に対する楽観的な見方が強まった。一方、現在の景気に対する判断(「良い」-「悪い」)は+2.4(前月+6.3:改定前+6.0)とプラス幅を縮小、現在の景気に対する楽観的な見方を弱めた。

期待指数の構成項目では、「景気」、「収入」がプラス幅を縮小したうえ、「雇用」がマイナスに転じた。6ヵ月後の景気に対する見方(「良くなる」-「悪くなる」)は、+3.4(前月+8.8:改定前+8.1)とプラス幅を縮小し、景気の先行きに対する楽観的な見方を弱めた。また、6ヵ月後の収入に対する見方(「増加する」-「減少する」)は、+2.9(前月+8.6:改定前+7.2)とプラス幅を縮小し、収入に対する楽観的な見方を弱めた。さらに、6ヵ月後の雇用に対する見方(「多くなる」-「少なくなる」)は▲2.2(前月+4.9:改定前+2.2)とマイナスに転じ、雇用の先行きに対して悲観的となった。

消費者信頼感 (Consumer Confidence)

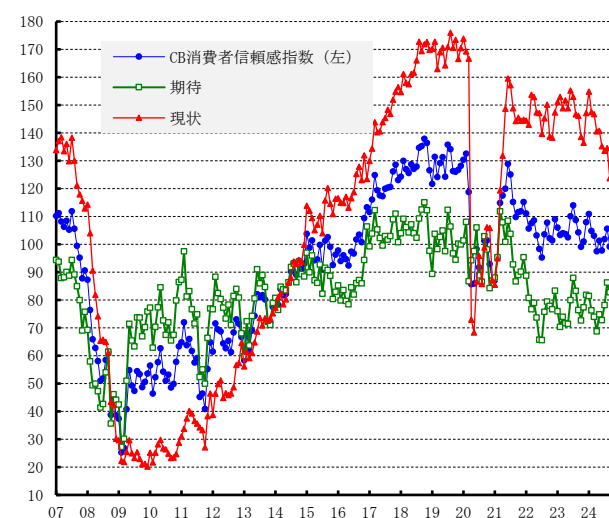
	消費者信頼感指数										ミシガン大学消費マインド*	
	期待指数	現状指数	雇用判断		半年後の景況感		半年以内の購入計画		期待	現状		
			充分	困難	良くなる	悪くなる	自動車	住宅				
23/12	108.0	81.9	147.2	40.4	13.1	18.7	17.8	11.9	5.3	69.7	67.4	73.3
24/01	110.9	81.5	154.9	42.7	11.0	16.7	16.0	10.7	4.8	79.0	77.1	81.9
24/02	104.8	76.3	147.6	42.8	12.7	14.0	16.9	10.8	4.6	76.9	75.2	79.4
24/03	103.1	74.0	146.8	41.7	12.2	14.3	18.5	11.4	5.2	79.4	77.4	82.5
24/04	97.5	68.8	140.6	38.4	15.5	13.4	19.1	11.5	5.2	77.2	76.0	79.0
24/05	101.3	74.9	140.8	37.0	14.3	13.7	16.9	12.2	5.2	69.1	68.8	69.6
24/06	97.8	72.8	135.3	35.5	15.7	13.2	17.6	11.1	5.1	68.2	69.6	65.9
24/07	101.9	78.2	133.6	34.1	16.0	14.8	16.7	10.5	4.2	66.4	68.8	62.7
24/08	105.6	86.3	134.6	32.7	16.8	19.1	14.5	11.5	4.8	67.9	72.1	61.3
24/09	99.2	82.8	123.8	31.3	18.6	19.4	17.1	11.9	5.8	70.1	74.4	63.3
24/10	109.6	91.9	136.1	34.1	17.6	21.1	13.0	13.1	6.1	70.5	74.1	64.9
24/11	112.8	93.7	141.4	33.6	15.2	24.7	15.9	13.1	6.2	71.8	76.9	63.9
24/12	104.7	81.1	140.2	37.0	14.8	21.7	18.3	11.4	4.9	74.0	73.3	75.1

(図表)消費者マインドの動向(月次)



(出所) C B、ミガン大学

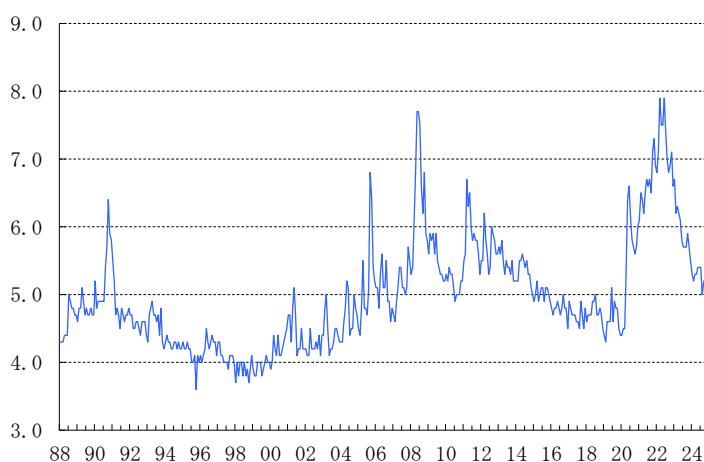
(図表)消費者マインドの動向(月次)



(出所) C B

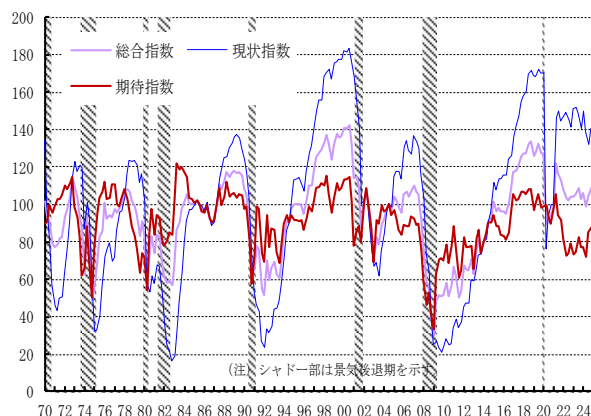
インフレに関しては、1年先のインフレ見通しが5.0%（前月5.0%）と8%弱のピークから低下傾向を辿っているものの、依然高い上昇が予想されている。

(%) 12ヵ月後のインフレ見通し

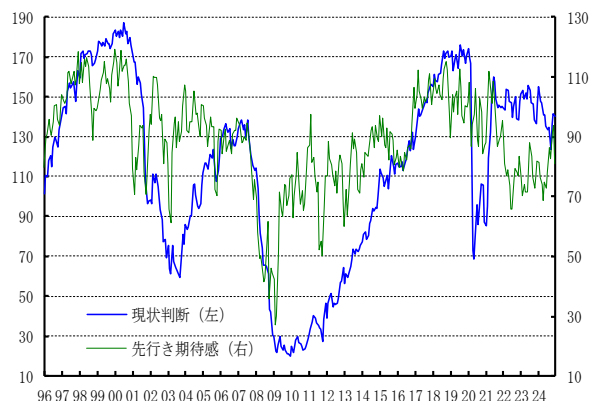


25年前半のC B消費者信頼感調査では、市場金利の再低下や、景気の先行きに対する楽観的な見方等が、期待指数の上昇に繋がる可能性が高い。一方、高い政策金利や信用状況の引き締め、コスト増加等による景気の減速、労働需給の一段の軟化を背景に、現状指数が低下すると見込まれる。この結果、C B消費者信頼感指数は100程度に低下し、個人消費の緩やかな拡大の一因になると予想される。

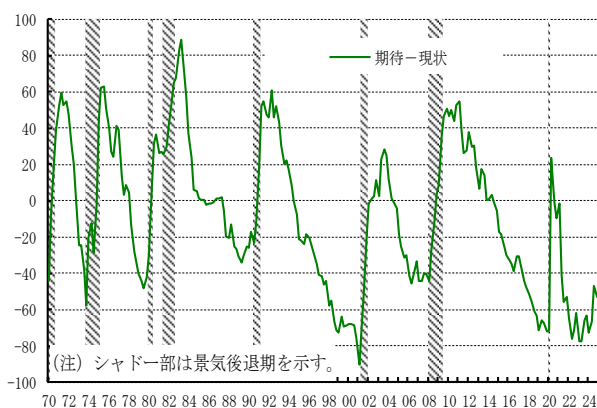
消費者信頼感指数の推移(四半期)



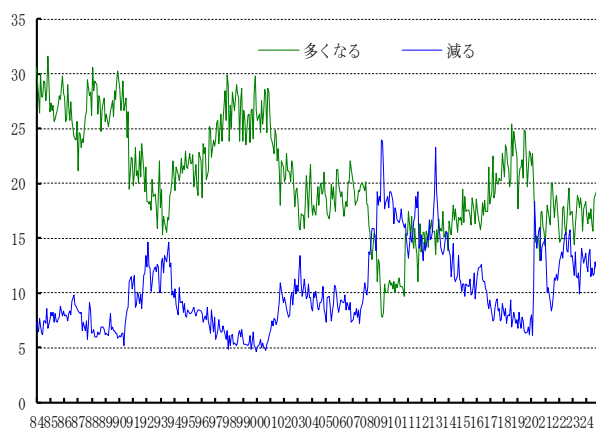
消費者信頼感指数の推移



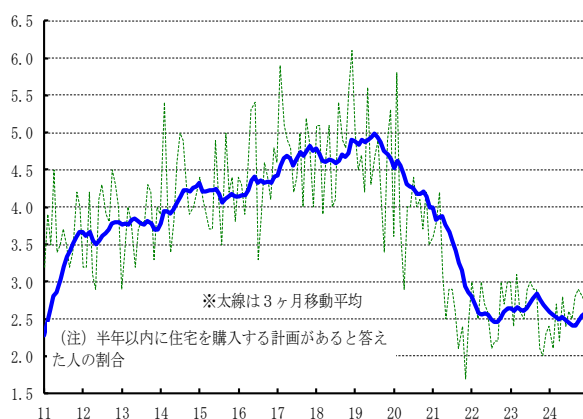
(期待指数-現状指数)の推移



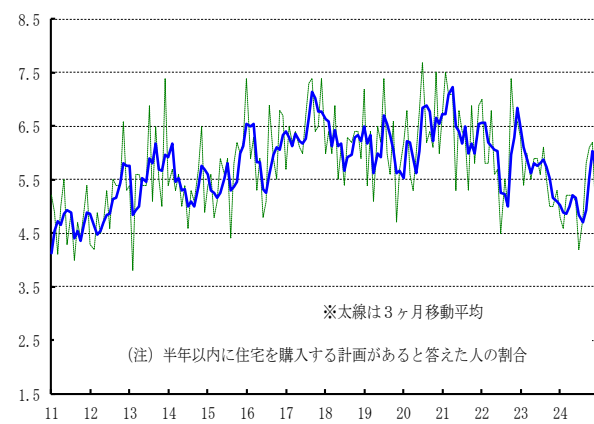
(%) 6ヶ月後の収入見通し



(%) 新車購入計画比率の推移



(%) 住宅購入計画比率の推移



(出所) C B

(出所) C B

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見通しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。